

# こんにちは！ 名寄市長 加藤剛士です



Vol.12

このコーナーは、Airてっし（エフエムなよろ）との共同企画で、テーマを市長が設定し、本誌ではコラムとして、Airてっしではパーソナリティーとの対談で放送いたします。

## 北・北海道中央圏域定住自立圏の形成にあたって ～中心市としての責任を自覚し、ダイナミックな発想でまちづくりを～

本年9月30日、北・北海道中央圏域定住自立圏の形成協定合同調印式が行われ、名寄市と士別市が「中心市」となり、11の「周辺自治体」それぞれと協力関係を結びました。総務省が推し進める、この「定住自立圏」構想は、地方圏において、安心して暮らせる地域を各地に形成し、圏域全体で役割を分担しながら必要な生活機能を確保するもので、中心市には都市機能を集約的に整備し、周辺市町村はそれぞれの財産を活用することで、圏域の活性化を図り、地方圏への人口定住を促進する政策です。

この構想は、平成21年4月から全国各地で取り組みが進んでいますが、市町村合併は、合併そのものに強力な財政支援があったのに対し、定住自立圏は、行政体はそのままに、中心市と周辺自治体が協定という1対1の契約で役割分担し、互いに高め合おうというもので、その協定の内容に応じて国による財政支援があります。地域の主体性を重んじた、非常に分権的な考えに沿ったシステムだと思います。

既に名寄市は、炭化対象ゴミの処理（炭化センター）・し尿収集処理（衛生センター）、消防に関する事務を複数の自治体と共同で行っています。全国的な少子高齢化、とりわけ地方においては過疎化が進んでいく中で、一自治体で全ての行政サービスを完結させることは、不可能になってきています。「選択と集中」で、それぞれの自治体の特徴をさらに打ち出していくこと、そして足りないハード・ソフトのインフラを相互補完、利用していくことで、魅力ある地域を創造していくことが必要です。

特に、名寄市が周辺自治体から期待をされているのは医療・保健・福祉の分野です。地方センター病院である「名寄市立総合病院」の患者さんの約半数は名寄市外であり、圏域に救急医療や高度先進医療を安定的に提供していくために

は、お医者さんをはじめスタッフがこの名寄市立総合病院に安定的に確保されなければなりません。また、民間の開業医さんをはじめ、地域の病院や診療所との役割分担と連携強化もますます重要になります。そして「名寄市立大学」。医療・保健・福祉という地域の根幹を為す政策提言集団として、また大学生のマンパワーに対しての期待が高まっています。大学は、この地域を実践教育の「キャンパス」として、位置付けをあらためて再認識し、地域振興という使命に燃え、研究成果の地域への還元や人材育成を図っていかなくてはならないと思います。

さらには観光。それぞれの市町村で伝統と特色ある「食」「自然環境」「スポーツ」「歴史」「文化」、そして「人」。これら「点」を結んで「線」にしていき、「絵」を描いていく。「ストーリー」を作っていく。広域で連携することは、豊富で多様な地域資源を有することにもなりますので、北・北海道中央圏域定住自立圏は、これらに裏打ちされた無限の可能性を秘めています。

今後は、中心市としての責任を自覚しながら、「相互扶助」の精神を発揮し、きめ細やかな政策展開を図るため、市町村の枠を超えた、よりダイナミックな発想でまちづくりを考えていきますので、市民の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

※この企画のAir てっしでの放送時間は、毎月1日と10日の午前と午後の予定。土・日のときは、その翌日の放送となります。



「名寄市からのお知らせ」を放送中

市からのお知らせやイベント情報などを紹介しています。

放送＝毎週月～金曜日 ① 8:10から ② 12:30から ③ 17:10から